

感謝の場面での謝罪の発話
—日本語母語話者とタイ語母語話者の意識と使い分け—
スィリラット・サンタヨーパス

要旨

日本語で感謝を示すとき、「ありがとう」ではなく「すみません」などの謝罪の表現を使うことがあるが、その社会言語学的な要因について詳細な実態調査されたことは管見の限りではない。そこで、今回、日本語母語話者とタイ語母語話者各 120 名（20 代から 70 代までの 6 つのグループ男女 10 名ずつ）を対象に、6 つの感謝の場面でどのように感謝を表現するかについてアンケートとインタビュー調査を行い、それを「ありがとう」に代表される感謝表現と「すみません」に代表される謝罪表現に分けて分析した。その結果は次の 3 点にまとめられる。①日本語は様々な感謝・謝罪表現を使用するが、タイ語はどのような感謝の場面でも、基本的に「コップクン」を使う。②話し手の属性は、日本語母語話者もタイ語母語話者も男女間、年代による差はほとんど見られない。③話し手と聞き手の関係（社会的距離）が日本語の感謝・謝罪表現の使い分けに最も影響を与える要因となっており、上下、親疎ともに関係がある。

キーワード：感謝、謝罪、「すみません」、対照言語学、社会言語学

1. はじめに

「すみません」を始めとする感謝・謝罪表現についてはすでに多くの研究がなされてきた。例えば、「感謝」と「詫び」の言語表現の使い分けを話し手の心理状態から説明する佐久間勝彦（1983）の議論がある。「ありがとうございます」が自己の「喜び」の表現（自己志向的）であるのに対し、「すみません」が相手（他人）に対する「恐縮の念」の表現（他人志向的）であるということから、お茶を出された時の感謝の表現として「ありがとうございます」よりも「すみません」の方が、謙虚さや優しさが感じられやすいという。

次に、より広くポライトネスという概念でこの問題をとらえると、Brown and Levinson（1987）の研究がまず参照されるべきであろう。Brown and Levinson は Goffman（1967）の face という概念を用い、話し手と聞き手はネガティブ・フェイス（他人に邪魔されないで自由に行動したいという願望）とポジティブ・フェイス（自分の願望が他人にとっても望ましいものであってほしいという願望）の両方を持ち、お互いの感情を考慮しながら会話を進めていると主張する。前者は「すみません」、後者は「ありがとう」と関連する。

また、熊取谷哲夫（1991）は、感謝の対象となる行動に対して「すみません」と「ありがとう」が併用される現象について、「感謝」という発話行為が行われるメカニズムには、話し手にとって「快適状況が生じ（たと判断す）ることにより、話し手は聞き手に対するある種の『負い』を持つ」という前提があるという。それゆえ、話し手は「円満な人間関

係を保持するためにはこの不均衡を修復するための方策を講じなければならない」と考え、「感謝」という発話行為をすることで、再びバランスの良い人間関係を手に入れようとする。つまり、「すみません」と「ありがとう」の併用現象について、両者の談話機能の違いを「すみません＝不均衡修復のための行為」、「ありがとう＝感謝のやりとりの終結標識」と区別し、感謝のやりとりの構造と併用現象が生じると説明する。

他に、三宅和子(1993)は、実際には「すみません」と「ありがとう」の併用より「すみません」か「ありがとう」のどちらか一方で感謝の意味を伝える会話の方が一般的であるとしている。つまり、「すみません」の一言に「ありがとう(ございました)」の意味を込めていると考えられる。三宅は、*indebtedness*「借り」の有無が「感謝」と「詫び」の心理を左右すると説いた Coulmas (1981) の論考を考察し、詫び表現がどのような条件において感謝の意味で使われるかを解明しようとしている。

最後に、頼美麗(2008)は、多くの辞書が「すみません」という表現の使用場面に依頼の場面を挙げていることに注目し、依頼の際に「すみません」などの謝罪の言葉がよく使われるためであると論じる。日本語教育でも、依頼の文型や依頼場面の会話文を提示する際、「すみませんが、～ていただけませんか」のように、「すみません」或いは「申し訳ありません」などの表現が添えられることがある。その点から見ても、日本語では「すみません」「申し訳ありません」などの表現は依頼の場面において重要な存在であると言う。

しかし、感謝・謝罪表現の研究は、上述のように内省による理論的なものが中心であり、「すみません」と「ありがとう」が実際の場面でどのように使い分けられているのかという大規模な調査は管見の限り存在しない。また、感謝・謝罪表現の使い分けに関して、男女差、年代差、相手との関係などを網羅し、実際にはどの要因が「すみません」と「ありがとう」の使い分けに影響を与えているのかということを社会言語学的に調査したものも今までなかった。そこで筆者は、日本語母語話者・タイ語母語話者それぞれ120人ずつにインタビューを行ない、その結果の分析を通して、両言語話者が感謝の場面で行なう謝罪表現の使い分けについて明らかにする。

2. 調査の方法

筆者は「感謝の場面」としてⅠ「誰かに何かを頼んでしてもらったことに対して感謝をする場面」と、Ⅱ「相手には何も頼んでいないが、してくれたことに対して感謝をする場面」の二つを設定し、それぞれ相手にかかる負担の大きさに応じて低・中・高という3場面に分け、日本語母語話者とタイ語母語話者にアンケートとインタビューを行った。そこから、なぜどのような場面で謝罪表現を使うのか、どのような意識でその表現を使ったのかを探る。さらに、それは個人差、男女差、年齢差といった社会的属性が関係しているのかどうかについても検証する。

調査対象者は日本語母語話者とタイ語母語話者であり、年齢別に20代、30代、40代、

50代、60代、70代以上の6つのグループに分けた。それぞれのグループを男女10人ずつとし、合計240人を調査対象者とした。調査時期は2009年9月から2010年4月にかけて、東京都内およびバンコク市内で原則として筆者との対面により調査を行った。個人情報について尋ねるのは年齢と性別のみに限定した。アンケート調査に答えてもらった後、調査対象者の時間の許す範囲でフォローアップ・インタビューを行っている。

場面Ⅰは Situation 1～3、場面Ⅱは Situation 4～6 である。全ての場面で、ア. 普段お世話になっている目上の人、イ. とても仲のいい友人、ウ. 普段面倒を見ている年下の人、エ. 普段あまり親しくなく名前と顔を知っている程度の知り合い、の4人の話し相手を想定した。対象者の回答は自由回答である。その回答を A: 感謝系、B: 謝罪系、C: 感謝・謝罪系、D: その他、E: この人に頼まない、の四つに分類し、分析する。なお、日本語母語話者、タイ語母語話者への質問と回答はそれぞれの母語によって行った。

3. 調査の結果

3.1 話し手による使い分け

3.1.1 母語別の使い分け

各場面（Ⅰ、Ⅱ）にはそれぞれ3つの Situation が含まれており、それらはその負担度に応じて低・中・高のレベルに分けられている。各場面におけるタイ語母語話者と日本語母語話者それぞれの回答数は、3つの Situation 4人の相手×120人の調査対象者＝1,440である。さらにタイ語母語話者と日本語母語話者を合わせると、総計2,880の回答数になる。それぞれの場面の結果は図1と図2に示した通りである。

図1：場面Ⅰの言語別の回答数の比較

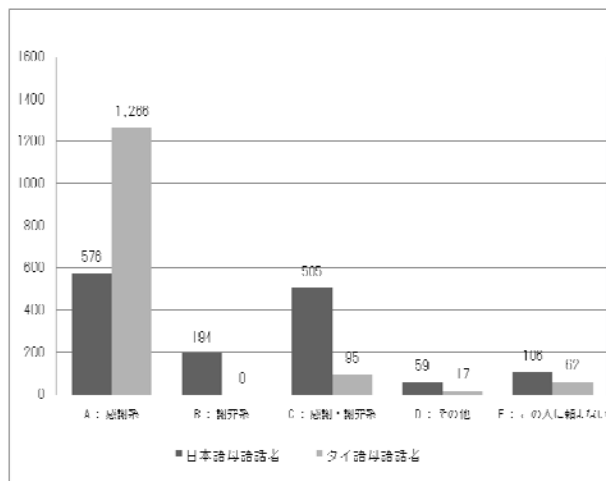


図2：場面Ⅱの言語別の回答数の比較

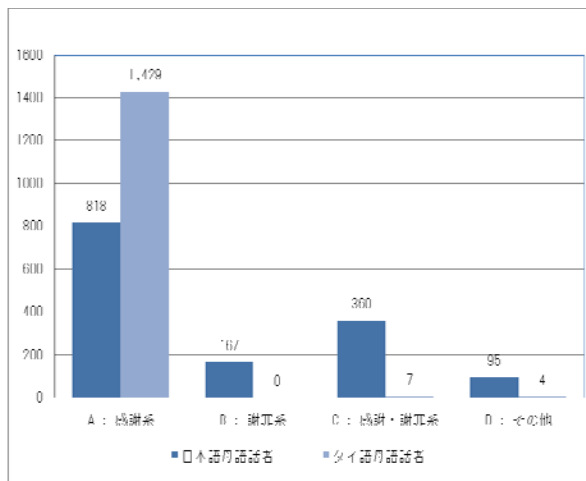


図1は場面Ⅰ（Situation 1～3）「誰かに何かを頼んでしてもらったことに対して感謝をする場面」の結果である。図2は場面Ⅱ（Situation 4～6）「相手には何も頼んでいないが、してくれたことに対して感謝をする場面」の結果である。

日本語母語話者では「A. 感謝系」の回答数に、「C. 感謝・謝罪系」の回答数が近いことに注目したい。頼んだことをしてくれた人に、日本語母語話者は「ありがとう」以外の様々な表現で回答している。相手に頼んで何かをしてもらう場合、時間や手間の負担を相手に強いることになり、そのことに対する遠慮や配慮から、より丁寧な「C. 感謝・謝罪系」を選択する人が多くなっていると思われる。また、場面Ⅰにおいて日本語母語話者は、場面Ⅱに比べ、わずかではあるが、「B. 謝罪系」を多く使用していることが分かる。

一方、タイ母語話者はⅠⅡどちらの場面においても圧倒的に「A. 感謝系」を用いるが、場面Ⅰの場合、相手は自分より立場や年齢が上である時に、「ありがとう」とともに謝罪表現が出やすいという結果になっている。場面Ⅰと場面Ⅱを見比べると、前者のほうが後者よりタイ語母語話者の「C. 感謝・謝罪系」が多い。このような使い方には個人差もあるかもしれないが、タイ語母語話者の場合、基本的に場面の違いによる大きな結果の違いは見られない。どのような場面でも基本的に感謝系で済ませるのである。

3.1.2 男女別の使い分け

次に男女間の比較をしてみたい。以下詳しく見ていく。

図3と図4は各場面における日本語母語話者の男女別の発話傾向を示したもので、図5と図6は同内容をタイ語母語話者について示したものである。それぞれの場面における男女それぞれの回答数は、3つの Situation×4人の相手×60人の調査対象者＝720（男女総計1,440）である。

図3：場面Ⅰの日本語母語話者の男女比較

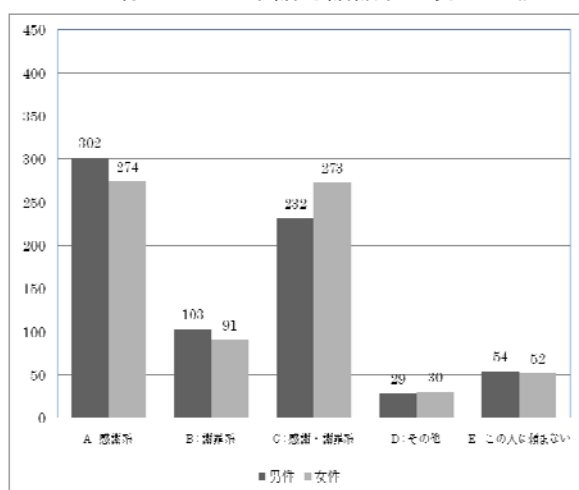


図4：場面Ⅱの日本語母語話者の男女比較

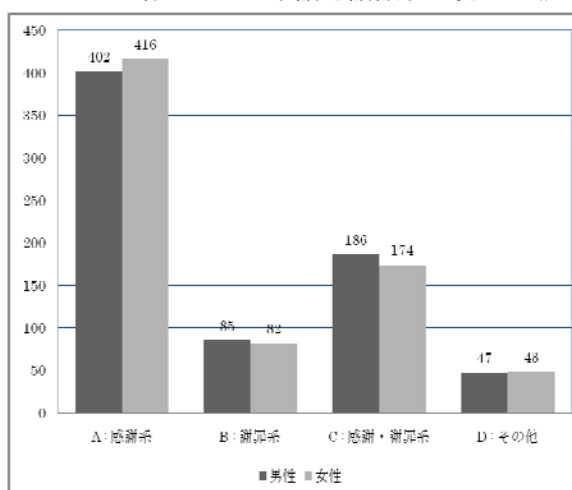


図3は場面Ⅰの日本語母語話者の男女比較である。全体的に見ると、回答数の分布は男女でほぼ同じ結果であるが、「A. 感謝系」は男性のほうが女性よりわずかに多いのに対して、「C. 感謝・謝罪系」は女性のほうが多い。

感謝の場面での謝罪の発話
—日本語母語話者とタイ語母語話者の意識と使い分け—

図4は場面Ⅱの日本語母語話者男女の比較である。場面Ⅱになると、1位の「A. 感謝系」が場面Ⅰに比べて大きく増えているのに対して、「C. 感謝・謝罪系」は約半数にまで減少した。しかし、どの場面も男性のほうが女性より謝罪系が多いという結果になっている。男性のほうが女性よりも感謝の場面で「すみません」を使うという傾向が見られる。

図5：場面Ⅰのタイ語母語話者の男女比較

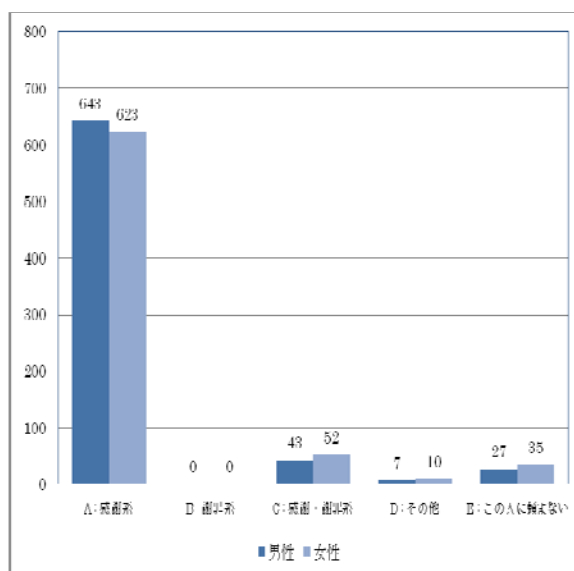


図6：場面Ⅱのタイ語母語話者男女比較

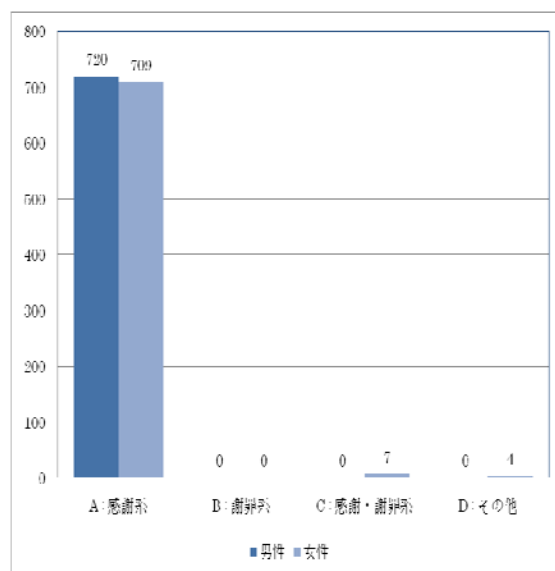


図5と6は各場面のタイ語母語話者の結果である。この2つの場面も男女とも圧倒的に「感謝系」であるが、どちらの場面も男性の数のほうが若干多い。そして、場面Ⅰの結果には、場面Ⅱに比べて若干ではあるが「C. 感謝・謝罪系」の回答が見られる（図5）。この回答は場面Ⅰ、Ⅱとも100%相手が「ア. 普段お世話になっている目上の人」と「エ. 普段あまり親しくなく名前と顔を知っている程度の知り合い」に対する回答である。つまり、タイ語母語話者は日本語母語話者と同じく上下・親疎関係による表現の使い分けをしている可能性が若干ながら指摘できる。ただし、日本語母語話者ほど明らかな差が見られない。場面Ⅱの図6では、タイ母語話者の女性の「C. 感謝・謝罪系」の結果は7人いるが、この7人が場面Ⅰで何を選択したかを見ると、場面Ⅰと場面Ⅱ双方でCを選択した人もいれば、どちらかでだけ選択した人もいる。これは、表現の好みに個人差があることを示しており、大きな違いは見られなかった。

最後に、図5において「E. この人に頼まない」を選択するケースが現れるという興味深い結果が得られた。図3の日本語母語話者の結果と比較すると、男女ともにタイ母語話者の方が少ない。また、日本語母語話者は男性の方が多く、タイ母語話者は女性の方が多い。図5、図6ともに、「C. 感謝・謝罪系」を選んだのが女性に多かったこと、また図5において、「E. この人には頼まない」という回答が女性に多かったことから、タイ母語話者は女性の方が男性より、相手への配慮・考慮が高いことがわかる。

以上のように、両言語とも、男女によって使い分けに差が見られた。特に日本語母語話者の「A. 感謝系」と「C. 感謝・謝罪系」の使い分けについては、誤差の域を超えるものであろう。さらに、口頭でのインタビューではその意識の差も示されていた。しかし、こうした意識の差は、調査対象者全体を通して見られるものではなく、数値上の差も決して大きいものではない点に留意したい。

3.1.3 年代別の使い分け

図7と図8は各場面の日本語母語話者・タイ語母語話者それぞれの10歳ごとの年代別の回答結果を示している。各図とも、回答数は各年代の調査対象者ごとに3つのSituation×4人の相手×20人=240になっている。

図7：場面Ⅰの両言語の年代別比較

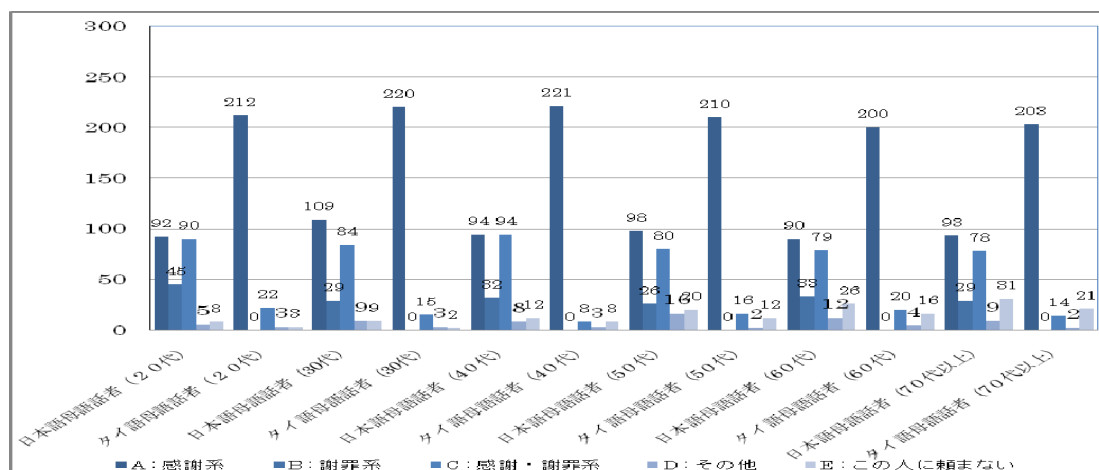


図8：場面Ⅱの両言語の年代別比較

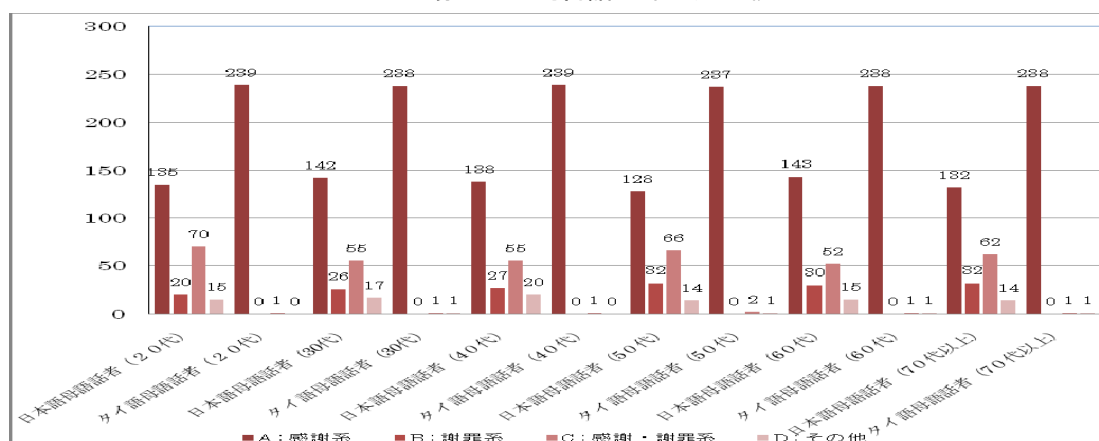


図 7 をみると、場面Ⅰ「誰かに何かを頼んでしてもらったことに対して感謝をする場面」において、日本語母語話者は 40 代の人以外、「C. 感謝・謝罪系」より「A. 感謝系」のほうがやや数が多いが、どの年代も「A. 感謝系」と「C. 感謝・謝罪系」の数が近いことが分かる。年代による大きな差はない。一方、図 8 に見られる場面Ⅱ「相手には何も頼んでいないが、してくれたことに対して感謝をする場面」では、日本語母語話者の「A. 感謝系」の回答数はどの年代も場面Ⅰに比べて約 2 倍となっており、「C. 感謝・謝罪系」は減少する。一方、「D. その他」の結果は「B. 謝罪系」の結果と違い、場面Ⅱになると、全体的に数が増加する。場面Ⅱでは、日本語母語話者はあまり「B. 謝罪系」を使用しないことが分かる。

一方、タイ語母語話者は、場面Ⅰも場面Ⅱもどの年代も圧倒的に「A. 感謝系」を回答し、特に場面Ⅱでは、全ての年代において「A. 感謝系」の回答がほとんどを占めている。

3.1.4 話し手による使い分けのまとめ

結果として、これまで見てきたように、日本語母語話者もタイ語母語話者も年代別の回答にわずかな差が見られ、口頭によるインタビューからも年代ごとの意識の差をわずかながらうかがい知ることができた。しかし、これらの差は数値の上では決して大きなものではなく、むしろ年代による差がほとんど見られないと言ってもいいだろう。場面Ⅰも場面Ⅱも日本語母語話者とタイ語母語話者もそれぞれ年代ごとに類似した回答数の分布が見られ、両言語話者の年代による顕著な差は確認できないと言える。

話し手による使い分けの分析結果を簡単にまとめると、以下ようになる。

- ① 感謝の場面での日本語・タイ語両言語話者の表現の使い分けは明らかに違う。
- ② 両言語話者の男女別による使い分けに違いは見られるが、大きな差はない。
- ③ 両言語話者の年代別による使い分けに違いは見られるが、大きな差はない。

3.2 聞き手による使い分け

3.2.1 場面Ⅰの聞き手による使い分け

すでに見てきたように、タイ語母語話者の場合、謝罪系を使うことが少なく、感謝系と謝罪系の使い分けが問題になることはほとんどない。そこで、以降の記述では、日本語母語話者の使い分けに焦点を当てて論じることとする。

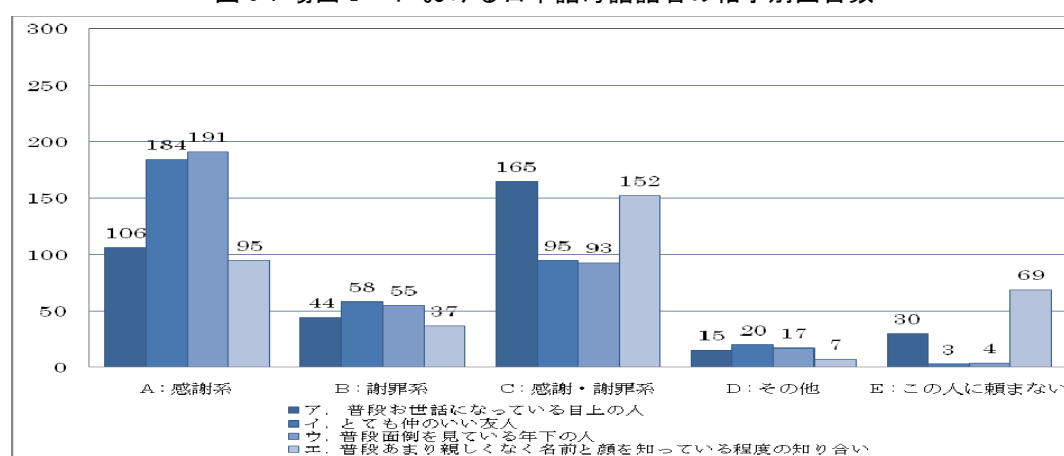
図 9 と図 10 は日本語母語話者が聞き手によってどのように感謝の表現を使い分けたのかを示したものである。それぞれの場面における回答数は 3 つの Situation×各相手 1 人×調査対象者 120 人＝360 になっている。

次ページの図 9 は場面Ⅰ「誰かに何かを頼んでしてもらったことに対して感謝をする場面」の聞き手の違いによる回答を示したものである。聞き手としては、「ア. 普段お世話になっている目上の人」（以下「目上の人」）、「イ. とても仲のいい友人」（以下「友

人」)、「ウ. 普段面倒を見ている年下の人」(以下「年下の人」)、「エ. 普段あまり親しくなく名前と顔を知っている程度の知り合い」(以下「知り合い」)を設定した。

感謝系のグループには「年下の人」が最も多く、「友人」がそれに続く。「年下の人」も「友人」も回答者にとって近しい存在であり、そうした相手に対しては、「ありがとう」と気軽な感謝の表現で済ませるようである。謝罪系を用いることが多いのは、上から順に、「友人」「年下の人」の順となっており、両者はほぼ同数である。相手が「友人」の場合、「悪いね」「ごめんね」といった回答が多い。

図9：場面Ⅰにおける日本語母語話者の相手別回答数



次に、この図を回答グループごとに見ていきたい。「C. 感謝・謝罪系」の回答グループを見ると、「目上の人」と「知り合い」は、ほぼ同数である。「A. 感謝系」の回答グループとは対照的な結果である。

この理由として考えられるのは、「C. 感謝・謝罪系」のほうにより丁寧で、目上の人や親しくない相手に用いるのに対して、「ありがとう」の感謝系が一番気軽な表現であり、同等レベルか自分より低い立場の相手によく使われる、ということである。たとえば、ある40代の女性は、目上の人や親しくない人に対しては、無意識に「ありがとう」と「すみません」を両方言ってしまうという。しかし、相手が近しい存在であれば、「ありがとう」だけを言うと言っている。彼女は両方を言うほうが丁寧で特に目上の人に相応しい感謝の仕方だと言っている。また、50代の男性の例では、「ありがとうございます」という言葉がプラス表現で、「すみません」という言葉がマイナス表現なので、「ありがとう」と「すみません」を両方言うと言っている。そして、相手がしてくれたことが、手間のかかることや、わざわざ時間を使ってしてくれた時には「ありがとうございます」だけでは物足りないと感じるそうである。あるいは、いつもこちらがお世話になっている人やビジネス上の付き合いのある人が何かしてくれたことに対しては、「ありがとうございます」だけでは物足りないと感じることが多々ある。その際には、「お気遣いくださり……」「お心遣いいた

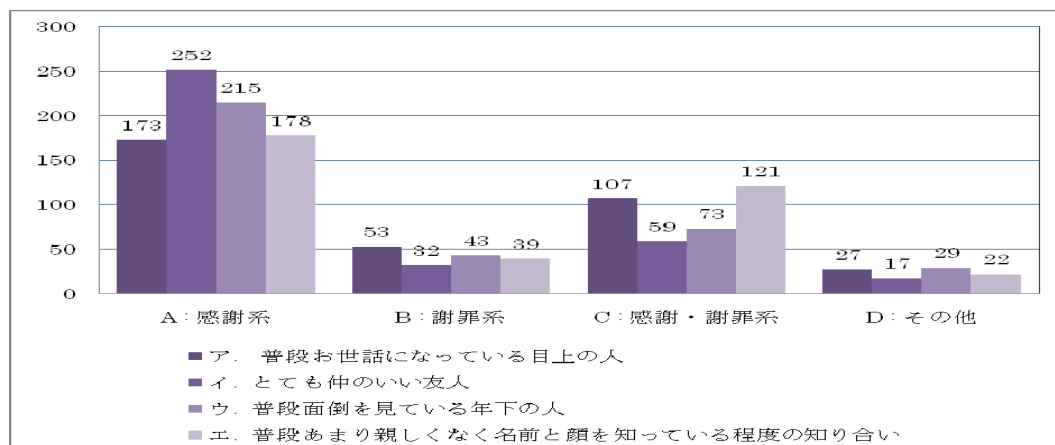
だき……」「……してくださって、恐縮しております」などの言葉を足して、お礼を言うことが多いと述べている。一方、どのような場面でも、どのような相手に対しても、「A. 感謝系」の「ありがとう」だけを使用する一人の30代の女性の話では、個人的に、「ありがとう」の代わりに「すみません」を使わないようにしている。正しい日本語ではないし、こどもの頃に祖母に間違った使い方であるとして注意されたと述べている。また、謝罪表現の「すみません」を感謝の意で使う人たちにとっては、「ありがとう」というのは照れくさかったり恥ずかしかったりするため、それよりも簡単に伝わる「すみません」を使用するのではないかと述べている。さらに、「ありがとう」というほどでもない、軽い感謝の意を「すみません」で表現しているように思うとも言っている。場面ごとに様々な意見があり、非常に興味深い結果となっている。

インタビューの結果から分かることは、「すみません」という謝罪表現が、感謝の言葉として使われたり、「ありがとう」と併用されたりすることで、より丁寧な表現となるとみなされていることである。「ありがとう」「すみません」の言葉の解釈には、人によって微妙なニュアンスの違いがあり、単なる感謝・謝罪の意だけではない。しかし、全体的に「すみません」という謝罪表現を感謝の表現として使っている傾向が強いことが見てとれる。また、状況や話し手、聞き手により、使われ方や言葉のもつニュアンスが微妙に異なるため、どれが「正しい」表現であるか決定することは難しい。

3.2.2 場面Ⅱの聞き手による使い分け

同様の分析を場面Ⅱについても行う。図10は、場面Ⅱ「相手には何も頼んでいないが、してくれたことに対して感謝をする場面」の聞き手の違いによる回答を示したものである。

図10：場面Ⅱにおける日本語母語話者の相手別回答数



「A. 感謝系」のグループがどの相手でも、多くなっている。最も数が多いのは相手が「友人」のときであり、次は「年下の人」となっている。それに対して、「C. 感謝・謝罪系」

のグループには場面Ⅰと異なり、「知り合い」の数が最も多い。次いで、「目上の人」となっている。どの相手に対しても「A. 感謝系」が圧倒的に多いことに注目したい。

場面Ⅱの特徴としては、「C. 感謝・謝罪」を用いられるべき「ソトの関係」の相手（「目上の人」と「知り合い」）でも、多くの人が素直に「ありがとう」の「A. 感謝系」を用いて感謝することである。つまり、日本語母語話者は場面Ⅱ「相手には何も頼んでいないが、してくれたことに対して感謝をする場面」になると、どのような相手であっても、「A. 感謝系」を使用する傾向があると言えよう。

ある50代の男性は、相手がしてくれた、自分にとって嬉しい行為に対しては、「すみません」とは言わず「ありがとう」と言う述べている。つまり、場面Ⅱでは、「A. 感謝系」の「ありがとう」が「B. 謝罪系」の「すみません」より相応しいと解釈しているのである。

また、この場面でどのような相手に対しても、「C. 感謝・謝罪系」を使用するという、別の50代男性は、他人が自分のために、時間などを犠牲にして何かを行ってくれているので、その犠牲にしてくれた手間や時間のことを考えると、自然に「すみません」と「ありがとう」がセットになって出てくると述べている。ここで考えられるのは、相手に、時間や労力や気遣いを使ってもらったという申し訳なさである。常に申し訳なさを意識して、「すみません」、「ごめんなさい」を使っているわけではないので、本来謝罪で使われる表現に、すでに感謝の意を表す意味合いも含めてしまっている。

相手が自分のために、時間や労力を使ってくれたことに対する申し訳ないという気持ちや遠慮などから、感謝とともに謝罪表現を併用するのではないかと考えられる。しかし、実際には常に申し訳なさや遠慮の気持ちを持って、「すみません」、「ごめんなさい」という表現を使っているわけではなく、本来謝罪で使われる表現が、感謝の意を含む表現として使われていると考えられる。

3.2.3 場面Ⅰおよび場面Ⅱに共通する特徴

以上の分析から、場面Ⅰと場面Ⅱに共通している特徴として以下の特徴が挙げられる。感謝の場面において、「C. 感謝・謝罪系」を使う傾向が高いことが挙げられるが、場面Ⅰの場合に、より多く現れている。

この結果から次のような考察が得られる。場面Ⅰと場面Ⅱはともに、自分のために時間や労力を使ってくれたことに対する申し訳ないという気持ちや遠慮などがあるということでは共通しているが、場面Ⅱが相手の好意による自発的行為であるのに対して、場面Ⅰはその行為を自らが相手に強いているという負い目があるため、感謝表現の他に、謝罪表現を重ねるという人がより多くなっているのではないかと考えられる。

3.2.4 聞き手による使い分けのまとめ

聞き手による使い分けの分析結果をまとめると、以下のようになる。

- ① 日本語母語話者の場合、場面Ⅰ「誰かに何かを頼んでしてもらったことに対して感謝する場面」か、場面Ⅱ「相手には何も頼んでいないが、してくれたことに対して感謝をする場面」かによって、聞き手による使い分けの違いが見られる。一方、タイ語母語話者の場合では、どちらも大きな違いは見られない。
- ② 日本語母語話者は、聞き手が友人や年下の人では、「感謝系」の使用が中心となるが、目上の人や知り合いになると、「感謝・謝罪系」の使用傾向が強まる。一方、タイ語母語話者は基本的にどの聞き手でも「感謝系」を使用する。

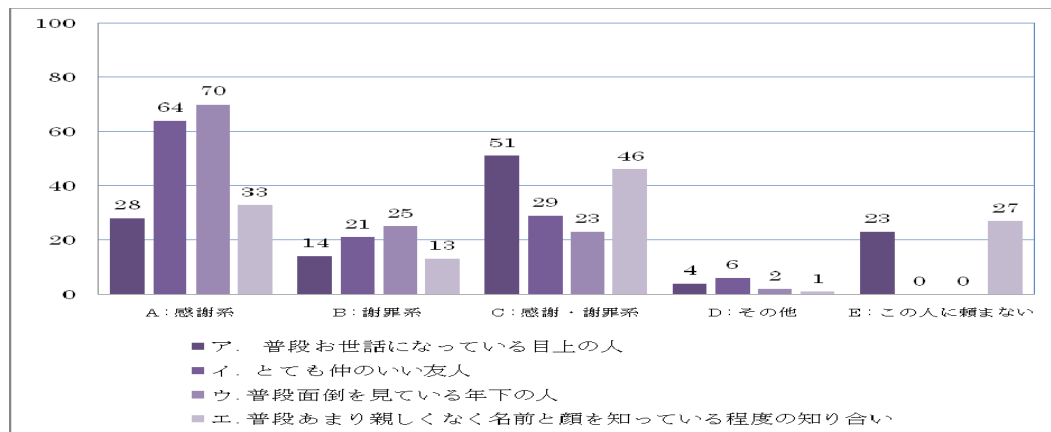
3.3 場面の負担度による使い分け

本章では各場面における表現の使い分けについて分析したい。以下、Situation ごとに設問、結果、考察の順で述べていく。まず、場面Ⅰの3つのSituationについて見る。

3.3.1 場面Ⅰ Situation 1（負担度低）の使い分け

【Situation 1】ア〜エの人が近くのコンビニへ買い物に行くとしたので、ついでに、お金を渡し、ある資料を数枚コピーしてきてもらうようにお願いすることにしました。コピーをしてきてくれた人に対し、感謝の気持ちを伝えたとしたら、どう言いますか。

図 11：Situation 1（負担度低）日本語母語話者の結果



この場面は、場面Ⅰ「誰かに何かを頼んでしてもらったことに対して感謝をする場面」の中で最も負担度が低いと考えられる場面である。コピーの作業は雑用で、ある程度仲がよい相手ではないと、頼みにくい場面であろう。負担度は低くても、相手の手を煩わせることになる。そこで、依頼する相手によって使う表現がどう違ってくるか観察したい。

まず、相手はアの「目上の人」の場合には、話し手と聞き手が「ソトの関係」になり、

一番多い答えは「C. 感謝・謝罪系」になっている。わざわざ雑用をしてもらったので、遠慮・恐縮感が強まって「ありがとう」だけでは物足りなく感じ、「すみません」や「申し訳ない」も付けたいとなると答えた人は少なくない。また、日本語母語話者は非常に丁寧に表現する特性があるということも考えられる。彼らは言葉を幾重にも重ねて表現する。

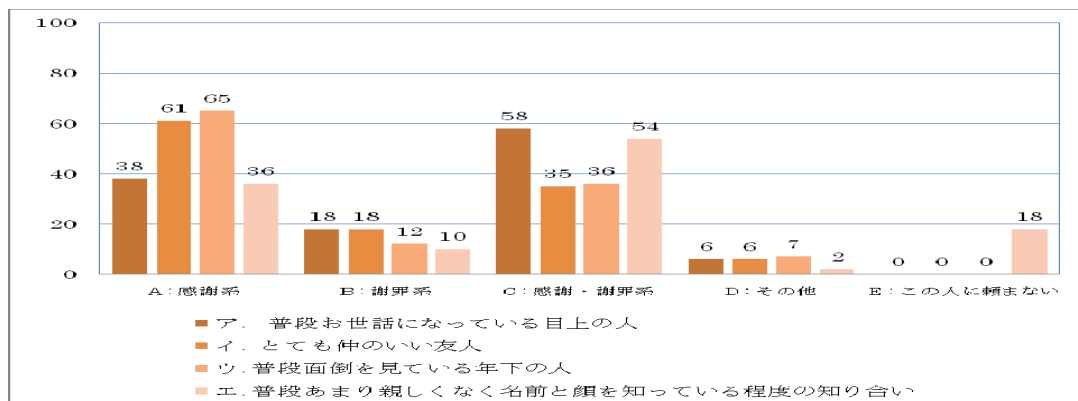
相手がイの「友人」やウの「年下の人」の場合、日本語母語話者は相手が「目上の人」の場合と違って、「A. 感謝系」の回答者は倍以上になる。また、「C. 感謝・謝罪系」を用いる人と比べても、倍の人数になる。相手が同等レベルや「ウチの関係」の人になると、「ありがとう」だけで感謝の気持ちを十分に表すことが出来るようである。その中で、もっとも多い回答は、「すみません」よりも「悪いね」「ごめんね」などの軽い謝罪である。

相手がエの「知り合い」の場合、日本語母語話者は「目上の人」と同様に「C. 感謝・謝罪系」が多くなる。この場面で、どのような相手に対しても「C. 感謝・謝罪系」を使用した一人の50代の女性対象者は、この場面は雑用で相手の労力に関係するので、「ありがとうございます」だけだと、随分簡単ね、と思われるであろうし、「友人」に対しては、相手によっては「ありがとう」だけを言うかもしれないが、自分としては友人にも「C. 感謝・謝罪系」を使ったほうが、相手に心配りを示すことができ、不満を持たせることを防止できると述べている。また、相手がだれであろうと「相手に必要以上の負担を掛けたと思う場合」に感謝の気持ちに加えて「すみませんでした」「申し訳ありませんでした」と付け加えたり、あるいは「本当に」「お陰さまで」「わざわざ」など強調する言葉を使ったほうがいいとも述べている。

3.3.2 場面Ⅰ Situation 2（負担度中）の使い分け

【Situation 2】夜、突然あなたの家族が病気で倒れました。車を持っていないため、隣に住んでいるア～エの人に、病院まで車で連れて行ってくれるように頼み、実際に連れて行ってくれたとします。感謝の気持ちを伝えるとしたら、どう言いますか。

図 12：Situation 2（負担度中）日本語母語話者の結果



この場面は、場面Ⅰの中で負担度が中程度であり、突然でやむをえない場面ではあるが、ある程度仲がいい人でないと頼みにくいのではないかと考えられる。時間帯は夜であるし、かなり相手に迷惑をかけてしまう依頼になる。

相手が「目上の人」の場合、日本語母語話者は「C. 感謝・謝罪系」の回答が最も多い。この理由については、「ありがとうございます」だけでは十分感謝の気持ちが伝えられない、迷惑をかけて申し訳ない気持ちが強いという回答が多く出された。一方、2位の「A. 感謝系」の回答では、その時は感謝の気持ちで一杯なので、「ありがとうございます」だけでも充分感謝の気持ちが伝えられるという人もいた。「C. 感謝・謝罪系」は「夜分にご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。感謝しております。本当にありがとうございました」「どうもありがとうございました。ご迷惑をおかけしてしまい、本当に申し訳ありませんでした」など、感謝と謝罪の表現の順番は様々である。そして、相手は「ソトの関係」であるため、発話量が多くとても丁寧な言い方になる。

相手が「友人」の場合、「A. 感謝系」の回答が約半数を占める。場面1と同じような傾向である。2位は「C. 感謝・謝罪系」で、「A. 感謝系」のさらに半数ほどである。

相手が「年下の人」の場合も「A. 感謝系」が最も多い。2位の「C. 感謝・謝罪系」はその半数ほどである。この場面では「友人」と「年下の人」の結果がほぼ同数である点が興味深い。タイ語母語話者はここでも変わらずほとんどが「A. 感謝系」である。

相手が「知り合い」の場合も「C. 感謝・謝罪系」が最も多い。日本語母語話者の場合、相手が「目上の人」と「知り合い」であれば、「すみません」と「ありがとう」の併用現象が出やすいようである。気軽に「ありがとう」というだけで済ませる相手は「友人」と「年下の人」のようである。

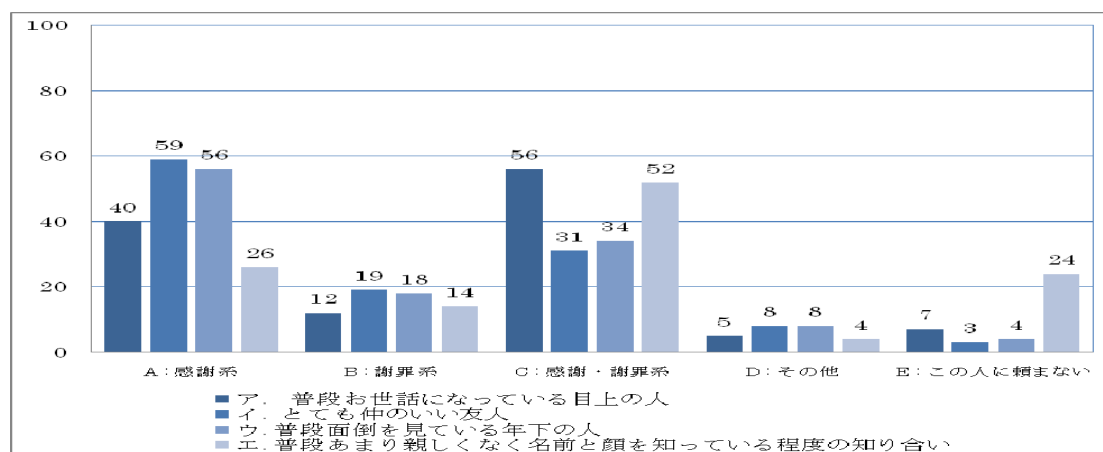
この場面で、どのような相手に対しても、「C. 感謝・謝罪系」を使用した40代の男性は、「ありがとう」、「どうもありがとう」、「ありがとうございます」は言い方が丁寧なだけで比較級や最大級の表現という感じはあまりしないので、前後に「すみません」や「すごくうれしい」という言葉をいれたり、笑顔でこたえたりするという。また、彼は感情を顔にだすのが苦手なので、頭を下げたり、すまなそうな顔をしたりもするという。そのため、相手に何かしてあげた時に、「ありがとうございます」と言っただけで何も話してくれなかったり、謝意や感謝の態度が感じられなかったら不満に思うし、反対に、すごく親しいと思っている人から改まって「ありがとうございます」と言われると、相手との距離が遠いような気がして不満に思うと述べている。

3.3.3 場面Ⅰ Situation 3（負担度高）の使い分け

【Situation 3】あなたの親が突然体調を崩し、病院での診察の結果、緊急手術を受けなければならなくなりました。しかし、手術には多額のお金が必要です。ア～エの人から50万円のお金を借りられるかどうか相談することにしました。事情を説明したところ、相

手の人がすぐ銀行へ行ってお金を下ろしてくれた時、感謝の気持ちを伝えるとしたら、どう言いますか。

図 13 : Situation 3 (負担度高) 日本語母語話者の結果



この場面は、場面 I の中で最も負担度が高いと考えられる場面である。借金の依頼は、やむをえない場合でなければ、誰しもしたくないことの一つであろう。最も頼みにくく、また、相手にとっても非常に迷惑なことだと思われる。

まず、相手が「A. 普段お世話になっている目上の人」の場合、「C. 感謝・謝罪系」の回答が全体の約半数を占めている。ある 40 代の女性対象者は、お金を借りるという場面は無理なお願い事で相手に非常に迷惑をかけてしまったので、「ありがとうございます」だけでは気持ちが伝わらないと言っている。そして、目上の人に対しては、感謝の気持ちと同時に「お手数をお掛けして申し訳ありません」と言ったほうが、「相手の心理が働くだろう」と彼女は述べている。彼女はこの場面以外でも「目上の人」に対してはすべて「C. 感謝・謝罪系」を用いる。もう一つの理由としては、感謝をする時「すみません」を付けると、年長者に対して敬意を表現できることを挙げている。この場面で、逆の立場であれば、彼女は「ありがとうございます」だけでは不十分に思うと述べている。多額のお金を相手に貸した時は、「ご迷惑をお掛けして申し訳ありません」、「本当にすみません」や具体的に「何時までにお返しするつもりです」などの言葉も聞きたいとのことである。

相手が「友人」の場合、日本語母語話者は半数ほどが「A. 感謝系」を選んでいるが、「C. 感謝・謝罪系」も少なくない。友人など関係が近い人であれば、重い場面でも「A. 感謝系」が多く使われることが分かった。「友人」の場合、どの場面でも「A. 感謝系」が多いようである。「C. 感謝・謝罪系」も少なくないが、それでも「A. 感謝系」の半分に過ぎない。

相手が「年下の人」の場合も、日本語母語話者は男女とも「A. 感謝系」の回答が多いが、全体的に見ると「友人」と「年下の人」については同じような結果になっている。

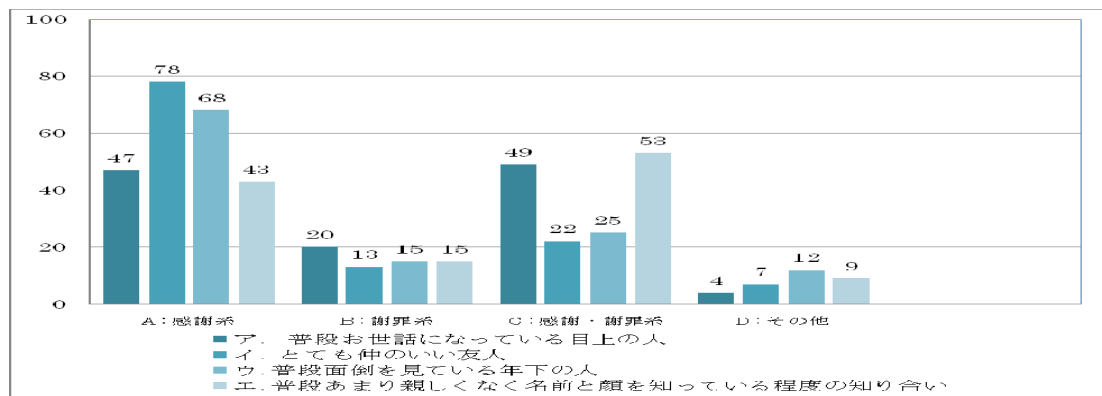
相手が「知り合い」の場合では、変わらず「C. 感謝・謝罪系」が最も多いが、「A. 感謝

系」と「E. この人に頼まない」も少なくない。お金を借りる場面は「知り合い」の相手だったら、頼めない、言いにくい、なるべくこの人に頼むのを避けるという回答があった。そして、エの相手に対しては、金銭などの面で負担をかけたことに対する謝罪表現を付け加えないと、ずうずうしく思われる可能性があるという声もあった。

3.3.4 場面Ⅱ Situation 4（負担度低）の使い分け

【Situation 4】ア～エの人が海外旅行をしました。帰国後、その国の有名なチョコレートのお土産を一箱（数個入りのもの）買ってきてくれたとします。感謝の気持ちを伝えるとしたら、どう言いますか。

図 14：Situation 4（負担度低）日本語母語話者の結果



この場面は、場面Ⅱ「相手には何も頼んでいないが、してくれたことに対して感謝をする場面」の中で、最も負担度が低いと考えられる場面である。頼んでいないが、してくれたことの中で最も一般的だと考えられるお土産の場面である。どんな相手にもらうかによって答えの差がどの程度あるかに注目したい。

この場面の結果の興味深いところは、全体の結果としては「A. 感謝系」が多いが、相手が「目上の人」と「知り合い」の場合、「C. 感謝・謝罪系」が最も多い回答数になっていることである。場面Ⅱでは、「目上の人」と「知り合い」に対しては、「B. 謝罪系」が最も多いと予想されるが、実際には「A. 感謝系」と「C. 感謝・謝罪系」のほうが多かった。

相手が「友人」と「年下の人」の場合は、「A. 感謝系」が圧倒的である。

相手が「知り合い」の場合、「C. 感謝・謝罪系」の回答が最も多くを占めている。親しくないのに、わざわざ自分まで気を遣ってお土産まで持ってきてくれたのは意外なことで、申し訳ない気持ちは他の相手よりも高いという声が多かった。「ありがとう」という感謝の気持ちと同時に「すみません」と恐縮する気持ちを用いないと、お土産をもらったことを当たり前だと思われるかもしれないという回答であった。

この場面について、ある 30 代の男性による分かりやすく面白い解釈を紹介したい。彼

は子供の頃、お菓子やお土産をもらえば「ありがとう」と言っていたそうであるが、今では「すみません」と言う場合もある。彼は感覚的に以下の通り使い分けているようである。

(あまり親しくない私のためにそんなことをしてくれて) →すみません

(親しい私のためにそんなことをしてくれたんですか) →ありがとう

(私のためにそんな大変なことをしてくれたんですか) →すみません

(あなたがしてくれた事のおかげでとてもいい気分です) →ありがとう

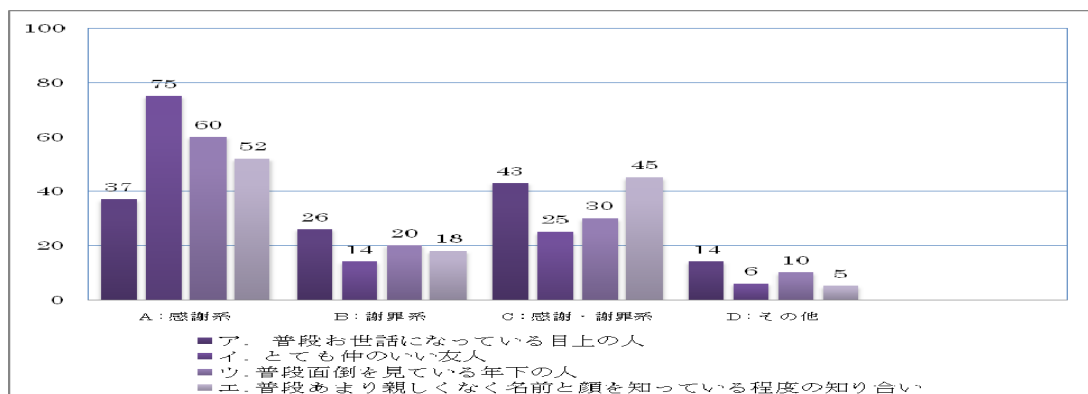
彼の場合、「ありがとう」や「すみません」という言葉の前に()の中のような言葉が入っているような感じだということである。自分の感覚だけでなく、相手との距離感もあるので同じ場面でも人によって「すみません」と言ったり「ありがとう」と言ったりするのだという。そのため、「目上の人」と「知り合い」に対しては、「B. 謝罪系」の「すみません」を使用し、「友人」と「年下の人」に対しては、「ありがとう」を使用すると述べている。

一方、どのような相手に対しても、「A. 感謝系」を使用する 40 代の男性は、お土産をもらった場面では、「ありがとう」だけを使っても十分感謝の気持ちを伝えられるので、「すみません」を言う必要はないと述べている。しかし、この場面と場面1 (コピーを頼む) 以外のケースでは、「ありがとうございます」と言うだけでは自分の感謝の気持ちが十分に伝えられないと答えている。相手が「ありがとうございました」と言った時の表情、状況にもよるが「どんな風に相手にとって嬉しかったのか? 助けになったのか?」などが判る言葉があったほうが、自分の取った行為の結果が判って喜びが増すという。

3.3.5 場面Ⅱ Situation 5 (負担度中) の使い分け

【Situation 5】仕事の残業で遅くまでア～エの同僚と二人しか残っていなかったとします。最終電車にも間に合いそうもない時間です。帰りを心配してくれた同僚は、家が逆の方向でしたが、わざわざ自分を車で家まで送ってくれました。感謝の気持ちを伝えるとしたら、どう言いますか。

図 15 : Situation 5 (負担度中) 日本語母語話者の結果



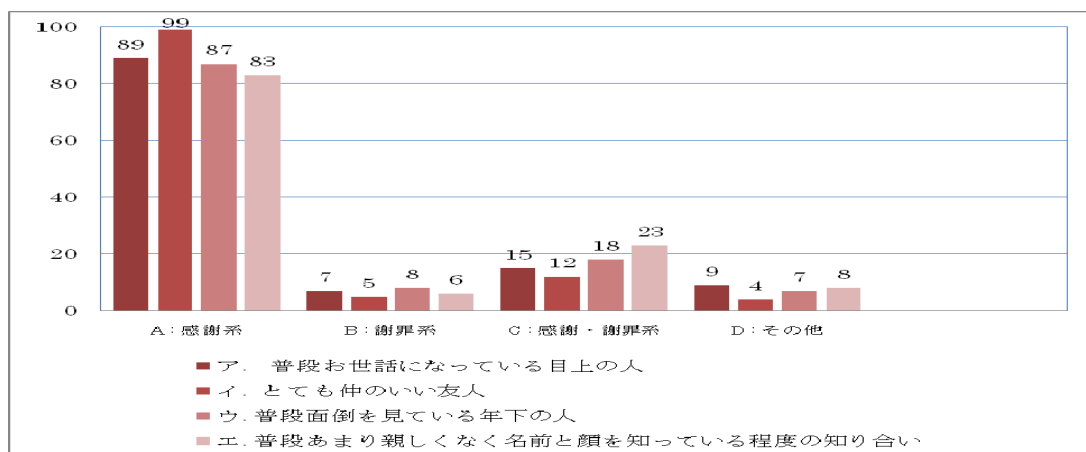
場面 5 は、場面Ⅱの中で負担度が中程度だと考えられる場面である。家が逆の方向なのに、わざわざ家まで送ってくれるのは遠慮と恐縮が高い場面ではないかと思われる。

まず、この場面の特徴としては、全体的に「A. 感謝系」の回答数が多いが、「目上の人」だけは、「C. 感謝・謝罪系」が最も多い。場面 4 では、「目上の人」と「知り合い」では「C. 感謝・謝罪系」の数が最も多いのに対し、場面 5 になると、「知り合い」に対する回答が「A. 感謝系」に変わったのはなぜであろう。場面Ⅱは場面の負担度が高ければ高いほど、発話量が多くなり言葉遣いの丁寧さも高くなって「B. 謝罪系」か「C. 感謝・謝罪系」が最も回答数が多いと予想した。しかし、場面の負担度が高くなるにつれて、全体的に「A. 感謝系」の回答数が増えている。50 代の男性は、場面Ⅱのような「相手には何も頼んでいないが、してくれたことに対して感謝をする場面」に対して、心を込めて「ありがとうございます」を言えば十分伝わると述べている。それに対して、場面Ⅰのような「誰かに何かを頼んでしてもらったことに対して感謝をする場面」では、相手がしなくていいのに自分のほうから無理に頼んだので、相手は犠牲を払い、迷惑・負担をかけられている。そのため、「すみません」などの謝罪系が場面Ⅱより多く出てくるという。彼は、普段日本語母語話者はこのような場面だから、このように言葉遣いをしようということをあまり意識していないので、本来ならば感謝をする時に、「ありがとう」だけを使っても特に違和感がないと述べている。

3.3.6 場面Ⅱ Situation 6（負担度高）の使い分け

【Situation 6】 家族が亡くなったので、ア～エの人がわざわざ海外からお葬式にかけつけてくれました。感謝の気持ちを伝えたとしたら、どう言いますか。

図 16：Situation 6（負担度高）日本語母語話者の結果



この場面は場面Ⅱの中で、最も負担度が高いと考えられる場面である。わざわざ海外から家族のお葬式に来てくれるのは、大変ありがたく恐縮することだと思われる。お葬式は

特別な場面であろうが、他の場面と全く違う結果になり、非常に興味深い。この場面はどの年代の日本語母語話者でも、相手が誰であれ、「A. 感謝系」が圧倒的な結果となっている。亡くなった人の代わりに、参列してくれた人に対して、お礼を言う場なのに、「B. 謝罪系」の「すみません」などの言葉を言ってしまうと、亡くなった人に対して失礼だと答える回答者が多数いた。これは筆者にとっては意外な結果であった。

ある 70 代の女性対象者の話では、日本の冠婚葬祭（結婚式、お葬式など）に参列してくれた方には、日本語母語話者は「ありがとう」とお礼を言うのが一般的だそうである。特に、お葬式は相手に知らせなくても招待しなくても普通は知っていたら参列する礼儀なので、「わざわざすみません」など言うよりも、「わざわざありがとうございます」のほうが相応しいと述べている。わざわざ参列してくれたので、感謝の気持ちで一杯である。謝る必要などない。謝罪表現を使わないほうが適切だという声もあった。「すみません」は確かに本当に不手際があった場合、真心よりすみませんという意味になるが、ここで使うと、不適切だと上述の 70 代女性は述べている。

3.3.7 場面の負担度による使い分けのまとめ

場面の負担度による使い分けの分析結果をまとめると、以下のようになる。

- ① 両言語話者は場面の負担度による明らかな違いは見えない。場面の負担度による使い分けは大きな要因ではない。注目すべきは、依頼内容の負担度（の高低）ではなく、依頼したかどうかということに関係していることである。
- ② Situation 6は葬儀という特別な場面であるためか、日本語母語話者の回答は圧倒的に「感謝系」が占めている。この結果が日本語母語話者の「高」の負担度の結果に大きな影響を及ぼしていると考えられる。一方、タイ語母語話者は「高」の負担度でも「低」と「中」の負担度の場面とほとんど変わらない結果になっている。

4. おわりに

今回のインタビュー調査の分析結果は、次の4点にまとめることができる。

- ① 日本語は様々な感謝表現を使用する。一方、タイ語はどのような感謝の場面でも、「コップクン」だけが使えるという結果になっている。
- ② 話し手の属性の面では、タイ語母語話者はもとより、日本語母語話者においても男女間、年代による差はほとんど見られない。つまり、日本語母語話者全体に共通し、広く日本語母語話者全体に関わる文化的背景が存在すると考えられる。
- ③ 日本語の場合、話し手と聞き手の関係（社会的距離）が両言語の違いに最も影響を与える要因となっており、上下、親疎ともに関係がある。お世話になっている目上や、親しくない知り合いの場合は丁寧な表現が選ばれ、仲のいい友人や面倒を見ている年下には気軽な表現が選ばれる。

- ④ 両言語において、依頼する場面の負担度の高低は、感謝・謝罪表現の選択にあまり大きな影響を与えない。一方、日本語の場合、葬儀の場面のように、特別な内容が大きな影響を及ぼすことがある。

今後は感謝・謝罪表現の量的な分析だけでなく、自由記述で選ばれた一つひとつの表現を丹念に検討する質的な分析を通し、使い分けの実態をより詳細に明らかにしていきたい。

参考文献

- Brown, P. & Levinson, S. C. 1987. *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press
- Coulmas, F. 1981. Poison to Your Soul: Thanks and Apologies Contrastively Viewed. In F. Coulmas (ed.), *Conversational Routine*. The Hague: Mouton. 69-91
- Goffman, E. 1967. *Interaction Ritual: Essays on Face-to-face Behavior*. New York: Anchor Books.
- Matsumoto, Yoshiko. 1988. Reexamination of the Universality of Face: Politeness Phenomena in Japanese. *Journal of Pragmatics*. 12: 403-426.
- 熊取谷哲夫 (1991) 「日本語における「感謝」の談話構造と表現配列—「すみません」と「ありがとう」の場合—」『広島大学日本語教育学科紀要』第1号 61-67
- (1992) 「発話行為対照分析の課題 (1) —日英語の「詫び」の対照を例に—」『広島大学日本語教育学科紀要』第2号 35-41
- 佐久間勝彦 (1983) 「感謝と詫び」『話し言葉の表現』講座日本語の表現 3 水谷修編筑摩書房 54-66
- 三宅和子 (1993) 「感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム—Coulmas (1981) の indebtedness 「借り」の概念からの社会言語学的展開—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第8号 19-38
- 頼美麗 (2008) 『依頼場面における謝罪と感謝—待遇コミュニケーションの観点から—』早稲田大学大学院日本語教育研究科 博士論文

(スィリラット サンタヨーパス 言語社会研究科修士課程修了生)